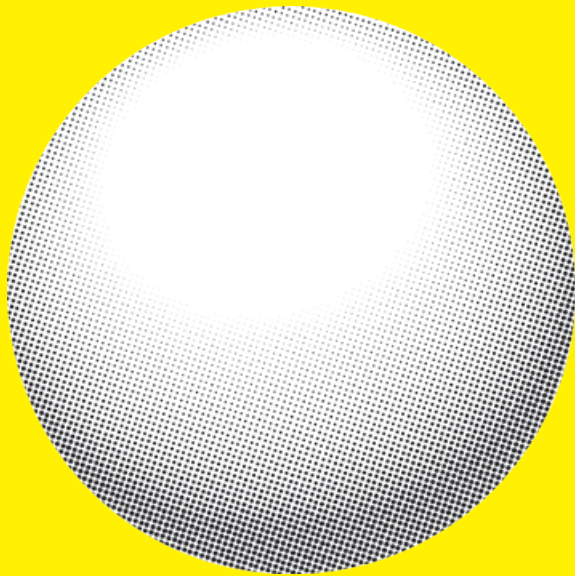


IAMAS RCIC Annual Report 2021



RCICと3つの役割について	04
連携までの流れ	06
イアマスこどもだいがく 2021	08
IAMAS Graduate Interviews	10
iamas open_house: 2021	12
その他の活動	14
2021 年度活動事例	18
2021 年の RCIC の活動を振り返って	20

各活動情報等については、本センター Web サイトでも常時公開しており、より詳細な情報や、紙面ではお見せできない動画等のコンテンツもご覧いただけます。

本書の各ページに掲載しているQRコードから、それぞれの活動関連ページにアクセスいただくことができます。

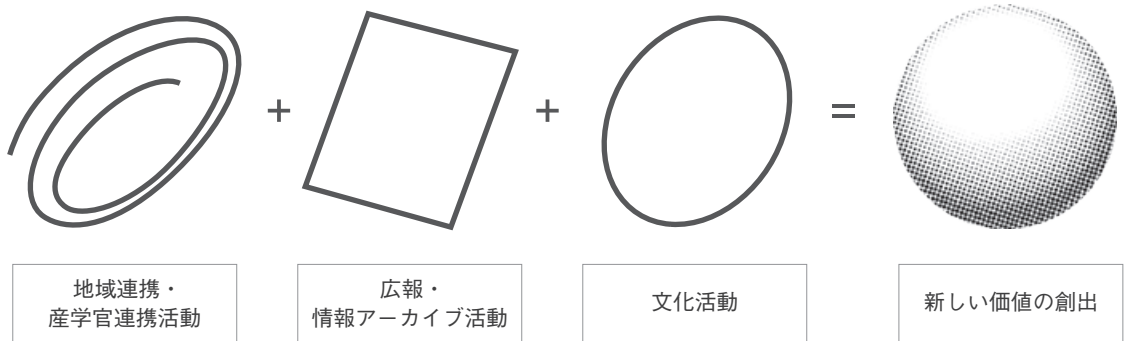
RCIC Web サイトはこちら

過去の年次報告書はこちら



産業文化研究センター（Research Center for Industrial Culture 通称RCIC）は2011年度より開設されたIAMASの附置研究機関です。

産業文化に関する学際的・総合的な研究を行うとともに、学外の諸機関との連携を図りつつ、本学の社会的機能を維持・発展させることを目的とし、以下の3つを軸として活動しています。



IAMASの活動の社会的な展開を目指す

地域連携・産学官連携活動

IAMASの教育研究活動を広く社会に周知し、また、研究成果を活かした産学官連携や地域連携を行っています。

県内外の企業、自治体や教育機関、非営利団体や地域コミュニティ等とさまざまな連携を試行しています。

- 学内シーズ(技術・デザイン等)や研究成果の紹介
- 教育研究機関との研究連携
- 営利企業や非営利団体、自治体との共同研究や受託研究
- 自治体や教育機関との連携による新しい教育事業の推進
- 県内研究機関とのネットワーク構築



教育・文化的な貢献や情報発信を目指した

広報・情報アーカイブ活動

IAMAS Webサイトの運営、広報物の制作・管理、アーカイブ機能としての
 展覧会カタログ等の刊行物制作、学内イベントの記録構築等を行っています。
 また、県内の研究機関・研究者とのネットワーク構築や、IAMAS卒業生との
 連携・協力等によるIAMASネットワークの強化にも力を入れています。

- Webサイトの運営
- SNSによる情報発信
- 広報物の企画制作・管理
- 展覧会カタログ等の刊行物の企画・制作
- 展示会や卒展カタログの制作監修
- 教員や学生の地域連携・産学官連携活動に関する調査と報告
- 卒業生を対象とした連携企画の運営



IAMAS の活動を広く社会に広めるための

文化活動

教育・文化機関とのネットワークを築き、学内での展覧会・交流会やイベント等、
 さまざまな文化的な催しの運営・補助を行っています。
 また、大小さまざまなレクチャーやシンポジウムの企画・運営も行っています。

- 卒業制作展の監修
- 学外連携事業の企画・運営
- IAMAS オープンハウスの監修
- Ogaki Mini Maker Faireの運営
- レクチャーやシンポジウム等の企画・運営



IAMASでは、県内外の企業、自治体や教育機関、非営利団体や地域コミュニティ等と連携することで、本学の情報科学技術と地域文化研究の成果を深化させるとともに、連携の成果によって地域社会へ貢献することを推進しています。附置機関である産業文化研究センターが、連携の相談から、教員やプロジェクトとのコーディネート、研究や事業契約の締結等のサポートを行っています。



共同研究 企業等の研究員と本学の教員とが、共通の課題について対等の立場で研究を行う制度です。これに要する経費は双方で負担します。研究は、それぞれの場において進めます。企業研究員を学内に受け入れての共同研究も可能です。双方の研究員が共同で行った発明等にかかる特許権等については、企業等は優先的実施権を行使できます。

受託研究 企業等からの委託を受けて、本学の教員が研究を実施し、その結果を報告する制度です。これに要する経費は委託者の負担となります。民間企業等からの研究員の派遣は不要です。特許権等は原則として本学に帰属しますが、優先的実施権を行使できます。



大垣市と連携した
「イアマスこどもだいがく2021」のワークショップ風景

今年度IAMASで行われた他種多様な活動を紹介します

Featured Activities



みんなの森 ぎふメディアコスモスと連携した
「どこコレ? @メディコス2021 with IAMAS」の最終成果物

「イアマスこどもだいがく」は、本学の研究や設備を用いた子ども向け講座で、2017年より大垣市と連携し、毎年開催している。5年目となる今年度は、「デジタルファブリケーション」と「プログラミング」を題材とした2つの講座を実施した。



講座①

せいぞろワークショップ

本学の施設「イノベーション工房」で、デジタルファブリケーションの1つ「レーザー加工機」を用いたワークショップを行った。

子どもたちは、自らタブレットとタッチペン、描画アプリケーションを使用し、加工データを設計。データの加工や組み立て、及び設計と加工のプロセスを繰り返して微調整すること等から、「せいぞろ」を体感的に学ぶことを目指した。

講座②

映像プログラミング～クリエイティブコーディング～

本学のカリキュラムの1つ「体験拡張表現プロジェクト」が主体となって、クリエイティブコーディングの基礎を学ぶ講座を実施。

映像プログラミング環境「Processing」と加速度センサーを使用し、実際にさまざまなコードを入力してみることで、画面に表れる図の形や色、数、配置、動き等が変化する様子を体感しながらアニメーションを制作し、プログラミングへの理解を深めた。



データづくりを通して行う表現体験が もたらす体感的学びの場



レーザー加工機で切り出すデータをタブレットでつくる様子

大垣市情報企画課から、子どもたちの科学やIT技術への関心を深めたり、プログラミング能力やITリテラシーを高めたりできるような企画について相談があったことを契機に、2017年から本活動を実施。本学の研究を子ども向けに展開し、さまざまなメディアを使用したユニークな表現体験を提供することで、参加者のテクノロジーを多様に活用する力、ひいては新しい「もの」や「こと」を創造する力の育成を目的として運営している。

今年度は、子どもたちが普段使用しないような専門性の高い機材やアプリケーションを用い、図形や文字によるデータ作成を通して、立体物やアニメーションを制作する講座を行った。参加した子どもたちは、慣れないツールの使用に苦戦しながらも試行錯誤を重ね、それぞれの制作に取り組んだ。またその中で、ツールの操作方法や、データが多様な表現に変化する様子等からさまざまな気づきを得て、それらを積極的に制作に取り入れようとする子どもたちの姿が見受けられた。2つの講座を各2回実施し、計20名の子どもたちが参加した。



センサーを動かしながら、画面上的アニメーションが変化することを確認する様子

■ IAMASの役割

本活動における本学の役割としては、大垣市情報企画課との打ち合わせを元に、今回実施した2つの講座の提案を行った。特に今年度は、ICT機器を使用することや、本学の研究や設備を活用することを意識した企画立案を行い、大垣市の協力のもと、運営と実施を担当した。広報物の制作等も担当している。

■ 連携先

大垣市情報企画課

■ 担当教職員と協力者

せいぞうワークショップ：

講師：伊澤宥依(RCIC) サブ講師：松村明莉(M2)

映像プログラミング～クリエイティブコーディング～：

講師：角 伊織(M1) サブ講師：石田駿太(M2)

サポート：平林真実(IAMAS教授)

甲斐知彦(社会人短期在学コース) 嶋 晏澄(M1)

永富美里(M1)

運営：赤羽 亨(IAMAS教授) 中畑電憲(事務局) 佐々木紘子(RCIC)

撮影：太田 宙(M1) 長谷川大祐(M1)

デザイン：稲吉宏紀(M1)

■ 参加したプロジェクト

体験拡張表現プロジェクト

■ 詳細情報



IAMAS では、国籍や年齢、分野（アートやデザイン系、理工学系、社会科学系、人文科学系等）が異なる学生が集まり、その違いを超え、互いの考え方に共感したり、議論したりする中で、それぞれの研究を深め合っている。開学から20年以上が経ち、そうした本学の卒業生数は1000名余り。現在は、さまざまな場所で、実に多種多様な活動や働き方を展開している。

本企画では、そのユニークな活動内容と共に、生き方が多様化していく一方、生き抜いていく技法を求められる現代社会の中で、卒業生たちが本学で学んだ時間をどのように感じているのかについてインタビューを行う。

現代社会を生き抜く

IAMAS 卒業生たちの多種多様でユニークな活動

IAMAS GRADUATE *interviews*

■ 担当教職員と協力者

運営：赤羽 亨 (IAMAS 教授) 佐々木 紘子 (RCIC)

編集・写真：山田 智子

■ 詳細情報



卒業生の現在のユニークな活動と、在学時に取り組んだ領域横断的な探求の関係についてインタビューを行うことで、本学の教育の特色を伝えることを目的に本企画を実施。在学時の研究や現在の活動に関連性の高い教員がインタビューを担当することで、専門的、且つ多角的な視点からの取材を行う。今年度は、卒業生が現在取り組んでいる活動に焦点をあて、その活動の詳細や、今後の展開についての取材に注力した。これによって、本学のみならず、卒業生の活動の広報の機会ともなるよう意識して運営した。

なお、インタビュー記事は全てWebサイトで常時公開している。

デイリーコーディングから生まれた NFT アート作品



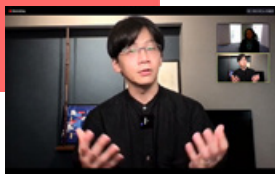
最新作のNFTアート作品「Generativemasks」が発売から数時間で1万個完売し、一躍時の人となった高尾俊介さんに、IAMAS在学中に主査を務めた前田真二郎教授が話を伺いました。「Generativemasks」はどのような経緯で生まれ、なぜこれほど高い評価を受けたのか。2回に分けて、じっくり語っていただきました。

Vol.024【前編】2021.09公開 【後編】2021.10公開

高尾俊介

クリエイティブコーダー / 2008年修了

Interviewer: 前田真二郎 (IAMAS教授)



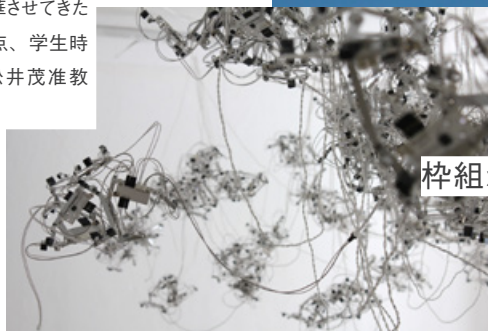
音、泡、放射線、虹、微生物、苔、気流、そして土。さまざまな物質や現象を「芸術」へと昇華させてきた三原聡一郎さん。アーティストとしての原点、学生時代、土に至った経緯などをIAMASの松井茂准教授が紐解きます。

Vol.025 2021.11公開

三原聡一郎

アーティスト / 2006年修了

Interviewer: 松井 茂 (IAMAS准教授)



枠組からはみ出した「その他性」

シェアキッチン、そしてそこで作られたものを販売する自動販売機を運営し、人や地域をつなげる「食」というメディアの可能性を追求する平塚さん。コロナ禍で黙食や孤食が増加する中、何を考え、どのように新たな「共食」の形を見出しているのか。IAMASでの担当教員でもあり、現在も交流されている金山智子教授が話を伺いました。

Vol.026 2022.02公開

平塚弥生

フードビジネスコンサルタント

株式会社Coneru 代表 / 2020年修了

Interviewer: 金山智子 (IAMAS教授)



食というメディアで、
人と人をつなぎ、コミュニティを生み出す

IAMASオープンハウスは科学的知性と芸術的感性の融合を目指した理論と応用を实践するメディア表現研究科の取り組みを、ライブ感をもって来場者と共有することを目的として毎年開催しているものである。

本学への進学を検討している方を対象とした進学相談会も合わせて実施され、教員や在学生と直接話す機会としてIAMASの受験を検討している方々や研究等活動に興味を持つ人々に向けて開かれている機会でもある。



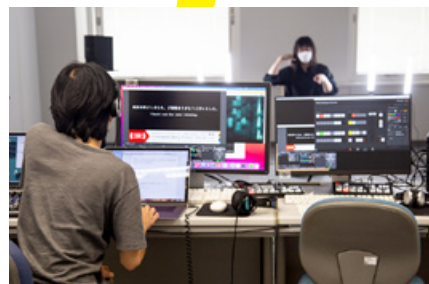
「木曜日の勉強会 第ゼロ回_ みんなが心の中にM氏を持っている_」セッション会場

2021年7月22日から23日の2日間にかけて開催した本年度のオープンハウス「iamas open_house: 2021」（以下OH2021とする）は、メディア表現研究科の全教員と在学生が多様な研究成果を発表する「フォーラム」の形式をとって開催された。

OH2021は劇場などの物理空間においては顕著に存在していた個々の鑑賞者が一人であると同時に一緒にいるという感覚を持つことを意味する「共集性」をテーマとして、《i.frame》という独自に開発されたオンライン・プラットフォーム上で実施された。

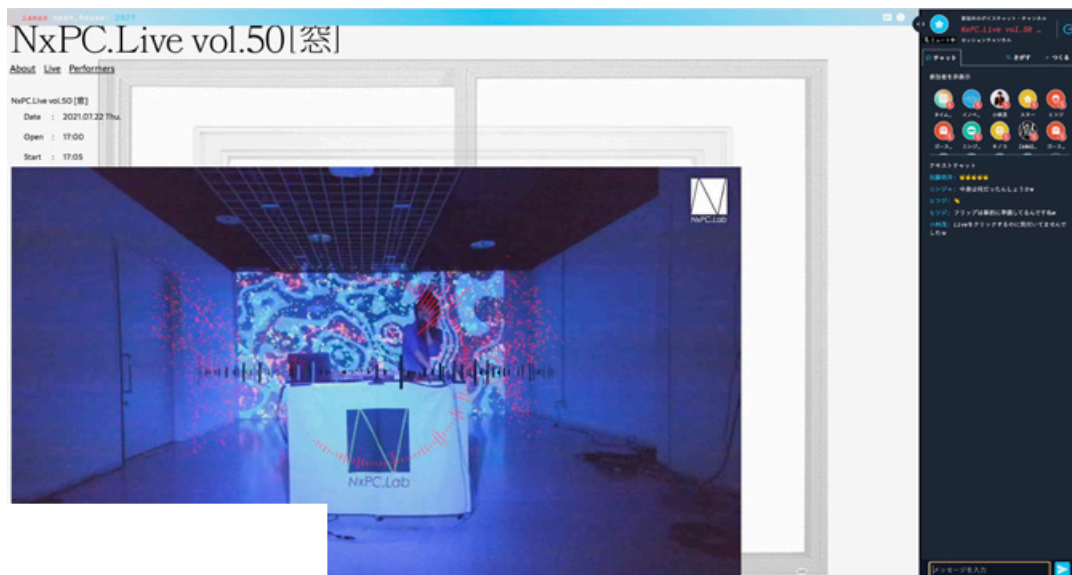
OH2021はで計20の多種多様な企画が開催期間中《i.frame》上に展開された。出展企画はそれぞれ活動形態に関する「プロジェクト研究」「教員個人研究」「修士研究」「自主企画」「学校案内」の5つのタグ付けと、活動内容に関する「アート」「デザイン」「理工学」「社会科学」の4つのタグ付けがされた。

合計20の企画のうち、15企画がイベント開催期間中いつでもアクセスができる「展示」または特定の時間帯のみにアクセスをする「セッション」の形式で展開された。また「展示」「セッション」は「作品解説」「上演」「トーク」いずれかの形式で展開された。



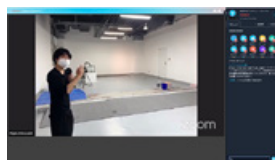
上：西田騎タライブ配信の様子
「エージェントを介在させてコミュニケーションモデルについて」
下：Time-Based Media Project ライブ配信の様子

独自プラットフォームによる 「共集性」とオンライン・イベントの新たな可能性



i.frame

《i.frame》は、Web技術の基本的なHTML要素のひとつでページの中に他のページを埋め込むために用いられる「iframe」（インラインフレーム）に由来して開発されたオンライン・プラットフォームである。《i.frame》の特徴はボイスとテキストの2つのチャットを提供することを通じて、インターネット上で展開しているさまざまな展示やセッションを一箇所に集めることなく、イベント期間中に繋がりと纏まりを提供することを目指したものである。



上：「NxPC.Live vol.50_窓」セッションの様子
左下：「施設紹介」セッションの様子
右下：「体験拡張表現.online」セッションの様子

OH2021の目的は、本学研究科内における教員・学生の研究成果を、完璧な作品の展示や錬成された研究成果の紹介という形ではなく、試行錯誤中のプロトタイプや理論には至らないアイデアも含めて、参加者全員で討論するための場をつくることにあった。

《i.frame》に設置されたボイス/テキストチャットによって、それぞれの企画の性質や内容の理解を促進する働きが一定数みられた。また一般的なオンライン・イベントのように出展者が複数集まり、個々のボイスチャットを用いて話し合うような企画も多く見受けられ、企画のメンバー全体がオフラインで集まってボイス/テキストチャットを使用するケースも見られた。OH2021での試みは本学だけでなく今後のあらゆるオンライン・イベント開催における新たな可能性を提示することができたという点で一つの大きな成果を残したものであるといえる。

■ 担当教職員と協力者

オープンハウス2021実行委員会：

委員長：松井 茂 (IAMAS 准教授)

《i.frame》監修：小林 茂 (IAMAS 教授)

デザイン監修：瀬川 晃 (IAMAS 准教授)

委員：赤羽 亨 クワクポリョウタ 平林真実 (IAMAS 教授)

ホアン・マヌエル・カストロ 山田晃嗣 (IAMAS 准教授)

運営：佐々木紘子 (RCIC) 佐々木 樹 (RCIC)

協力：ジェームズ・ギブソン (IAMAS 准教授) ハンター・ネルソン (事務局)

《i.frame》開発：加藤明洋 永松 歩 日比野光純

■ 詳細情報



森のアートプロジェクト

連携期間 2021.11



五感で感じた根尾の森をメディアで表現



多様なICTメディアを活用しながら撮影する子どもたち



本巣市は市面積の約8割を森林が占める。その豊かな自然は、市民が誇り、守っていきべき地域の資産であるが、近年では森林に触れる機会が減少し、次世代を担う子どもたちの関心もそれほど高くない。このような背景から、本プロジェクトでは、森林に向きあいながら、五感で感じた森林という環境を、多様なICTメディアを活用しながら子供たち自身が表現し、森林への理解と発見を学ぶ機会を創出した。

■ 担当教職員と協力者

鈴木宣也 (IAMAS 教授) 金山智子 (IAMAS 教授)
吉田茂樹 (IAMAS 教授) 小林孝浩 (IAMAS 教授)

■ 連携先

本巣市 根尾小学校

IAMAS ARTIST FILE #07

連携期間 2021.03 — 2022.03



岐阜県美術館[展示室2]に、多様な映像作品が展示された

岐阜県美術館とIAMASが2013年から2019年まで6回に渡って共催したIAMAS ARTIST FILEシリーズの7回目。映像メディアによる表現を展開してきた3名のIAMAS出身アーティストを紹介。展覧会タイトルは「ビデオ／からだと情報」。電子的な映像を表す「ビデオ」の語源は、ラテン語の「video (ビデオ)」であり、それには「私は見る」といった意味がある。「からだと情報」の関係に着目した三人三様の「見る仕事」を展示。

美術館と連携して

多様な映像作品を集めた展覧会を開催

■ 担当教職員と協力者

前田真二郎 (IAMAS 教授)

■ 担当プロジェクト

タイムベースメディア・プロジェクト

■ 連携先

岐阜県美術館

特別支援学校での防災教育における XR の活用



連携期間 2021.04 — 継続中

XR 技術の活用から 体験的でより深い学びを得られる 環境の実現を目指す

大垣特別支援学校での防災教育において、水害や液化化現象など授業での擬似体験では児童生徒らがどのように対応すれば良いかを理解させにくい、という問題意識を持たれていた。そこで、XRでのリッチな映像コンテンツを活用することで、従来の防災学習よりも理解を深めることを目的とした取り組みを行うこととなった。本連携は、当該支援学校が外部の補助金を得た事業に対して、本プロジェクトがアドバイザーとして協力したものの。



左：ARお天気アプリで豪雨の体験
右上：おもちゃの家が洪水に遭っている状況をVR映像で体験
右下：授業でのICT活用についてのインタビュー

■ 担当教職員と協力者

山田晃嗣 (IAMAS 准教授) 小林孝浩 (IAMAS 教授)

■ 担当プロジェクト

福祉の技術プロジェクト

■ 連携先

岐阜県立大垣特別支援学校

みちにな SDGs マルシェ前夜祭 NxPC.Lab ライブ



連携期間 2021.11

音楽と映像の両立を図ることで実現させた 新しいライブ表現



「なごや環境大学」実行委員会、錦二丁目まちづくり協議会、名古屋市が主催する名古屋市錦二丁目の路上で行われるSDGsイベント「みちになSDGsマルシェ」の前夜祭にてNxPC.Labとしてライブパフォーマンスを実施した。前夜祭にて18:00-20:00まで4組の出演者がMR/ARを利用したAudioVisualパフォーマンスを行った。



左：ARを用いたイトリングのパフォーマンス
右：MRによる音楽演奏

■ 担当教職員と協力者

平林真実 (IAMAS 教授)

■ 連携先

特定非営利活動法人大ナゴヤ・ユニバーシティ・ネットワーク
「なごや環境大学」実行委員会 錦二丁目まちづくり協議会
名古屋市

岐阜おおがきビエンナーレ 2021 国際シンポジウム 「L I F —— E !?」

連携期間 2021.12



幅広い視点からのアプローチで モダニズム／ポストモダニズム思考を超えた 「生命らしさ」を考える

2021年、12月17日（金）から19日（日）の3日間、岐阜おおがきビエンナーレ2021 国際シンポジウム「L I F —— E !?」をオンライン形式で開催した。今回のビエンナーレでは「L I F —— E !? - 部分的に生きているもの、エクストリーム・バイオロジー、エイリアン生命」と題し、多様なゲストを迎えた国際シンポジウムとなった。



久保田晃弘(多摩美術大学) Andy Gracie (アーティスト)
山岸明彦(東京薬科大学) Juan Manuel Castro (IAMAS)による
オンラインセッション

■ 担当教職員と協力者

ホアン・マヌエル・カストロ(IAMAS 准教授) 伊村靖子(IAMAS 准教授)

■ 連携先

大垣市

どこコレ? @ メディコス 2021 with IAMAS

連携期間 2021.07 - 2022.01



みんなの森 ぎふメディアコスモス1階で行われた企画展「どこコレ? @メディコス2021 with IAMAS」の展示空間の設計・設置をAction Design Researchプロジェクトで行った。設計の前段階では、ARアプリケーションを用いたメディアコスモス職員とプロジェクトメンバーによるワークショップを行い、実際のメディアコスモスの空間に3DCGモデルを配置しながら展示空間を検討した。

空間デザインシステム「Kiosk」を用いて 仮設的な展示空間をデザインする

ARアプリケーションを用いた展示空間検討の様子

■ 担当教職員と協力者

伊村靖子(IAMAS 准教授)

赤羽 亨(IAMAS 教授) 伊澤宥依(RCIC)

■ 担当プロジェクト

Action Design Researchプロジェクト

■ 連携先

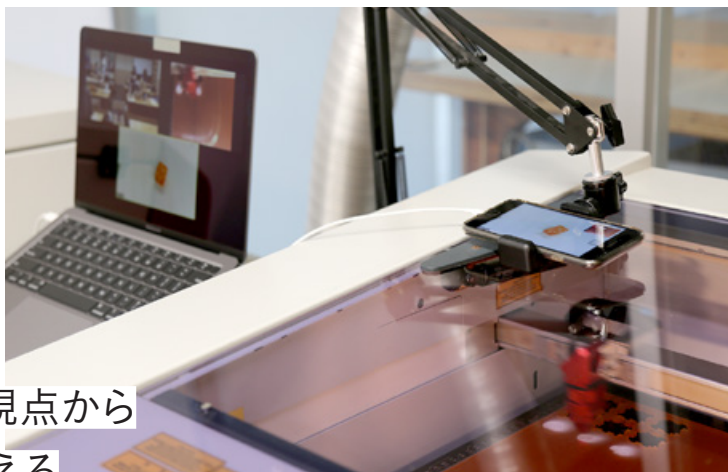
みんなの森 ぎふメディアコスモス

岐阜県立森林文化アカデミー連携授業「デジタルファブリケーション」

連携期間 2021.01 — 2021.12



2016年度から実施している岐阜県立森林文化アカデミーとIAMASの連携授業「デジタルファブリケーション」は、IAMASの学内施設であるイノベーション工房を活用し2日間の実習を通して、デジタルファブリケーション技術を学ぶ授業である。今年度は昨年度に引き続きオンラインにて、「木と組み」をテーマに開催した。



デジファブと木工相互の視点から 「ものづくり」について考える

遠隔地で出力される様子からデジタルファブリケーションの特性を学ぶ

■ 担当教職員と協力者

小林 茂 (IAMAS 教授) 伊澤宥依 (RCIC)

■ 連携先

岐阜県立森林文化アカデミー

春日森の文化博物館 探検ランドリニューアル記念展「森へ into the forest」

連携期間 2021.06 — 2021.12



既存の環境を捉え直し 新しい空間新しい体験を構成する

岐阜県揖斐川町にある「春日森の文化博物館」は開館から25年以上が経過し展示物の老朽化に直面している。自然豊かな環境と展示空間の条件を活かした立体、音、映像で構成された新しい鑑賞体験と、ワークショップやスタンプラリーなど幅広い年代でも体験できる機会を提供した。



ワークショップ：採集

■ 担当教職員と協力者

瀬川 晃 (IAMAS 准教授) 金山智子 (IAMAS 教授)
小林孝浩 (IAMAS 教授) 吉田茂樹 (IAMAS 教授)

■ 担当プロジェクト

Community Resilience Research プロジェクト

■ 連携先

春日森の文化博物館
揖斐川町教育委員会

名称	開催時期	場所・主催・共催・出版社・その他	担当教員	カテゴリ
2021年宇宙の旅 モノリス	2021.02.19 — 04.25	GYRE GALLERY (場)	ホアン・マヌエル・カストロ	文化活動 展示
「社会情報学」第9巻2号	2021.03.24	社会情報学会 (他)	金山 智子	研究・リサーチ 学会 受賞
特別支援学校におけるVRとARの有用性 ～体験的により深い学びを僕らの教室で～	2021.04.01	岐阜県立大垣特別支援学校 (共)	山田 晃剛 小林 孝浩	学校間連携 共同研究 相談
2021年美濃国池田山麓物語 「願成寺古墳群美術展～コロナ禍を超えて～」	2021.04.01 — 11.28	2021美濃国池田山麓物語 実行委員会 (主)	瀬川 晃	地域連携 制作・開発・デザイン
サイン・スタディー	2021.04.01 — 2022.03.31	伊藤忠アーバン コミュニティ・グループ (共)	瀬川 晃 伊澤 宥依 (RCIC)	産学官連携 制作・開発・デザイン
オアシスパークの活用について	2021.04.12 —	株式会社オアシスパーク (共) OKB総研 (共)	赤羽 亨 平林 真実 伊村 靖子 佐々木 紘子(RCIC)	産学官連携 相談
HOLOBIONT - LIVE IS OTHER	2021.04.17 — 06.20	MAGAZIN 4ギャラリー (場)	ホアン・マヌエル・カストロ	展示 文化活動
空気を測る! 新型の大気質測定器やモバイル放射線測定器が大集合。Safecastトークイベント	2021.04.22	Safecast (主) FabCafe Tokyo (主・場) オンライン (場)	小林 茂	フォーラム・講演
君と私が作った世界—The World We Made	2021.04.22 — 2022.03.07	PODO MUSEUM (場)	クワクボリョウタ	展示 文化活動
Maker Faire Kyoto 2021 「作って、向き合う—COVID-19に应答したオープンプロジェクトから学ぶ」	2021.04.30 — 05.01	O'Reilly Japan (主) オンライン (場)	小林 茂	フォーラム・講演 文化活動
WEBムービー・プロジェクト BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW 2011-2021 オンライン公開	2021.05 —	オンライン (場)	前田 真二郎	文化活動 上映 制作・開発・デザイン
岐阜イノベーション工房2021	2021.05.10 —	オンライン (岐阜県) (場)	小林 茂	産学官連携 相談 ワークショップ
現代短歌 2021年7月 / 85号 特集「岡井隆の(詩)を読む」	2021.05.16	現代短歌社 (出)	松井 茂	フォーラム・講演 出版・寄稿
Japan Open Science Summit 2021	2021.06.14 — 19	JOSS2022年実行委員会 (主)	小林 茂	フォーラム・講演
NxPC.Live vol.49	2021.06.20	オンライン (場)	平林 真実	パフォーマンス・上演
岐阜放送「美の精華」	2021.06.24	岐阜放送 (他)	三輪 眞弘	出演
日本デザイン学会第68回研究発表大会	2021.06.25 — 27	日本デザイン学会 (他)	鈴木 宣也	学会 受賞 研究・リサーチ
ことばの途上	2021.07.01	あわ居 (出)	瀬川 晃	制作・開発・デザイン 出版・寄稿
コロナ禍のアートシーンから考える	2021.07.03	GALLERY CAPTION ETHICA (場)	伊村 靖子	フォーラム・講演
ALIFE 2021 ART AWARD	2021.07.19 — 23	ALIFE 2021組織委員会 (主)	ホアン・マヌエル・カストロ	審査
iamas open_house: 2021	2021.07.22 — 23	オンライン (場)	松井 茂 小林 茂 瀬川 晃 佐々木 紘子 (RCIC) 佐々木 樹 (RCIC)	展示 研究・リサーチ 文化活動
クワクボリョウタ×SCARTS×札幌の中高生 たち「キョウドウ体 / syn体」ワークショップ	2021.07.24 — 25	札幌文化芸術交流センター SCARTS (主)	クワクボリョウタ	ワークショップ
大人のためのブックトーク	2021.07.31 — 2022.03.26	岐阜県図書館 (主・場)	小林 昌廣	フォーラム・講演
岐阜クリエイション工房2021	2021.08.01 — 12.16	オンライン (岐阜県) (場)	小林 茂	卒業生連携 ワークショップ
クロワッサン特別編集「防災BOOK」	2021.08.02	株式会社マガジンハウス (出)	金山 智子	出版・寄稿
Max サマースクール・イン・藝大2021	2021.08.02 — 06	東京藝術大学 (主・場)	三輪 眞弘	フォーラム・講演 パフォーマンス・上演
岐阜県立森林文化アカデミー 連携授業「デジタルファブ리케이션」	2021.08.19 — 26	岐阜県立森林文化アカデミー (場) IAMAS (場)	小林 茂 伊澤 宥依 (RCIC)	学校間連携 ワークショップ
放送セミナー「今こそラジオ! ~人に寄り添うメディア その先にあるもの~」	2021.08.27	総務省東海総合通信局 (共) 東海情報通信懇談会 (共)	金山 智子	フォーラム・講演
第43回びあフィルムフェスティバル	2021.09.11 — 25	国立映画アーカイブ (場)	松井 茂	フォーラム・講演
第21回中之島映像劇場 「美術館と映像—ビデオアートの上映・保存—」	2021.09.18 — 19	国立国際美術館 (主・場)	前田 真二郎	文化活動 上映
福島映像祭2021	2021.09.18 — 24	ポレポレ東中野 (場)	前田 真二郎	文化活動 上映

名称	開催時期	場所・主催・共催・出版社・その他	担当教員	カテゴリー
Fungible? VOL.1ーNFTから考える未来の美ー	2021.09.21	FabCafe Nagoya (主)	伊村 靖子 松井 茂	フォーラム・講演
週刊読書人2021年9月24日号 「脚本家・野木亜紀子の時代」	2021.09.24	株式会社 読書人 (出)	松井 茂	出版・寄稿
IAMAS Graduate Interviews	2021.09.30ー	オンライン (場)	赤羽 亨 佐々木 紘子 (RCIC)	広報・情報アーカイブ 卒業生連携
遠い誰か、ことのあるか	2021.10.01ー10	札幌文化芸術交流センター SCARTS (主・場)	クワクポリョウタ	展示 文化活動
イアマスこどもだいがく2021	2021.10.02ー24	大垣市情報企画課 (共)	赤羽 亨 平林 真実 伊澤 宥依 (RCIC) 佐々木 紘子 (RCIC)	地域連携 受研究託 ワークショップ
山形国際ドキュメンタリー映画祭 2021	2021.10.07ー14	認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭 (主)	前田 真二郎	文化活動 上映
春日森の文化博物館 探検ランドリニューアル記念展	2021.10.10ー31	春日森の文化博物館 (主・場)	瀬川 晃 金山 智子 小林 孝浩 吉田 茂樹	地域連携 展示 ワークショップ
第153回 明倫茶会 小林昌廣「舞踏茶会～エロスのために」	2021.10.30	京都芸術センター (公益財団法人京都市芸術文化協会) (主・場)	小林 昌廣	フォーラム・講演
芸術批評誌 REAR47号「記録と再生の倫理学」	2021.10.31	リア制作室 (出)	小林 昌廣	出版・寄稿
サイエンスアゴラトーク「VRアバター事例から With コロナな生き方を考えよう」	2021.11.03ー07	国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST) (主)	小林 昌廣	フォーラム・講演
サウンド&アート展-見る音楽、聴く形	2021.11.06ー21	アーツ千代田3331 (場)	三輪 眞弘	展示 文化活動
森のアートプロジェクト	2021.11.09ー10	根尾小学校 (共) 本巣市教育委員会 (共)	鈴木 宣也 金山 智子 小林 孝浩 吉田 茂樹	共同研究 地域連携 ワークショップ
寺社Now オンライン連載 「寺社彩々!花手水に誘われて」	2021.11.12ー	一般社団法人 全国寺社観光協会 (他)	金山 智子	出版・寄稿
ストーリーミング・ヘリテージ 台地と海のあいだ	2021.11.12ー28	なごや日本博事業実行委員会 (主)	三輪 眞弘	パフォーマンス・上演
〈NFTアート〉の可能性と課題	2021.11.19	オンライン (場)	小林 茂 クワクポリョウタ 松井 茂	卒業生連携 フォーラム・講演
みちになSDGs マルシェ	2021.11.19ー20	名古屋市錦二丁目 (場)	平林 真実	地域連携 パフォーマンス・上演
粒光	2021.11.24ー12.26	アキバタマビ21 (場)	小林 昌廣	フォーラム・講演
2021ACC's International Academic Conference	2021.11.25ー26	Asia Culture Center (場)	赤松 正行	フォーラム・講演
アートと遊びと子どもをつなぐメディアプログラム「メディア実験室」	2021.11.27ー12.05	愛知県児童総合センター (主・場)	鈴木 宣也	ワークショップ
どこコレ? @メディアコス2021 with IAMAS	2021.12.09ー 2022.01.23	みんなの森 ぎふメディアコスモス(場)	赤羽 亨 伊村 靖子 伊澤 宥依 (RCIC)	地域連携 展示 ワークショップ
サウンドデザインフェスティバル in 浜松2021	2021.12.11ー12	はままつ響きの創造プロジェクト実行委員会 (主) 浜松市 (主)	小林 茂	地域連携 フォーラム・講演
藻類を活用したバイオベンチャーグループとの連携	2021.12.15ー	株式会社ちとせ研究所 (共) OKB総研 (共)	赤羽 亨 小林 茂 佐々木 紘子 (RCIC)	相談
岐阜おおがきビエンナーレ2021	2021.12.17ー19	大垣市 (共)	ホアン・マヌエル・カストロ 伊村 靖子 瀬川 晃 赤羽 亨 前田 真二郎 三輪 眞弘	地域連携 文化活動 フォーラム・講演
IAMAS ARTIST FILE #07	2021.12.21ー 2022.03.06	岐阜県美術館 (共・場)	前田 真二郎	文化活動 展示 卒業生連携 地域連携
文化庁メディア芸術祭高知展 「ニューツナガル」	2022.01.13ー25	文化庁 (主)	クワクポリョウタ	展示 文化活動
Leading Educational group for Display research.実行委員会	2022.01.13ー02.04	サカエチカマチ株式会社 (主)	鈴木 宣也 前田 真二郎 平林 真実	学校間連携 文化活動 上映
CLUB TRAIN 2022	2022.01.15	樽見鉄道株式会社 (主)	平林 真実	産学官連携 パフォーマンス・上演
IAMAS2022	2022.02.20ー23	ソフピアジャパン センタービル (場)	瀬川 晃 金山 智子 佐々木 樹 (RCIC)	展示 研究・リサーチ 文化活動



■ 詳細情報

各活動の詳細情報は左記の QR コードからご確認いただけます。

産業文化研究センター（Research Center for Industrial Culture 通称RCIC）は、2021年度から新たな担当教員によって運営することになりました。

新しいメンバーでの運営にあたり、2021年度はRCIC運営の軸となる「地域連携・産学官連携活動」、「広報・情報アーカイブ活動」、「文化活動」の3つの活動の意義を再確認するとともに、それぞれのバランスを意識した活動に注力しました。

「地域連携・産学官連携活動」では、大垣市と連携した「イアマスこどもだいがく」の企画運営を行いました。それと並行して、外部企業との連携に向けた面談を積極的に行っており、その内のいくつかは将来の連携に向けて進展しています。

「広報・情報アーカイブ活動」では、IAMASやRCICに関するWeb制作や卒業生インタビュー等のWebコンテンツ制作や、本誌を含むIAMASが発行する出版物全般の制作、及び、制作進行管理を担っています。また、教員やプロジェクト関わったさまざまな外部連携の情報をまとめて公開する情報アーカイブに関する活動も担当しています。

「文化活動」では、オープンハウスや修了研究発表会を中心としたIAMAS主催イベントの運営を担うと共に、その内容を研究レポートとしても公開しています。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大による連携事業の中止や計画変更もあったため、必ずしも当初の予定通りにいかない部分もありましたが、来年度は学内の研究成果を起点にした地域連携や産学官連携により注力した活動を目指します。

RCICセンター長
赤羽 亨

RCIC のスタッフ紹介

センター長を含む教員 3 名、研究員 2 名、情報支援専門職員 1 名、技術支援専門職員 1 名で運営しています。



赤羽 亨 (Kyo Akabane)

RCIC センター長 / IAMAS 教授

インタラクションデザインの観点から、メディアテクノロジーを活用した協働デザインのための環境構築に関する実践的な研究を行っている。



平林 真実 (Masami Hirabayashi)

IAMAS 教授

コミュニケーションシステムという観点から研究を実施。近年は NxPC.Lab 名義の音楽イベントを起点に音楽体験の拡張をテーマとした研究を行っている。



伊村 靖子 (Yasuko Imura)

IAMAS 准教授

専門は芸術学。日本戦後美術の批評的文脈から、アートとデザインの歴史的区分を再考し、芸術と商業活動、産業の横断的な表現領域を研究対象とする。



佐々木 紘子 (Hiroko Sasaki)

研究員

RCIC では主に学外の企業や自治体との共同研究・地域連携ネットワーク構築といった連携推進業務を担当する。専門は地域や教育を題材とした美術表現。



佐々木 樹 (Miki Sasaki)

研究員

RCIC では文化活動を担当し、学内外の IAMAS に関わる展覧会等の企画運営や広報媒体のディレクションなどを行う。専門分野は芸術実践論。



伊藤 晶子 (Shoko Ito)

情報支援専門職員

RCIC では主に大学院の広報活動を担当。IAMAS 関連の WEB の企画・制作・運営を行う。専門は情報デザイン。



伊澤 宥依 (Yui Isawa)

技術支援専門職員

イノベーション工房の運営を担当し、デジタルファブリケーションを活用した研究・連携支援を行う。

RCIC メンバーレポート

RCIC では、IAMAS の広報、及び今後の RCIC の活動に向けたリサーチの一環として、本学の多様な取り組みの様子や、学内外のユニークで先進的な取り組みを行っている方々の活動等をレポート形式で紹介しています。

レポートは本学 Web サイトで常時公開しており、下記 QR コードからご覧いただけます。



お問い合わせ

RCIC では IAMAS との連携に関するご相談を受け付けております。ご希望の方は、メール、または下記お問い合わせフォームよりご連絡ください。

メール : rcic@ml.iamas.ac.jp

お問い合わせフォーム



IAMAS RCIC Annual Report 2021
- IAMAS 産業文化研究センター 年次報告書 -

2022年2月発行

監修：赤羽亨 (RCIC センター長 / IAMAS 教授)

編集：佐々木紘子 (RCIC)

デザイン：近藤崇司 (GOCCO.)

発行：IAMAS 産業文化研究センター (RCIC)

印刷：ニホン美術印刷株式会社

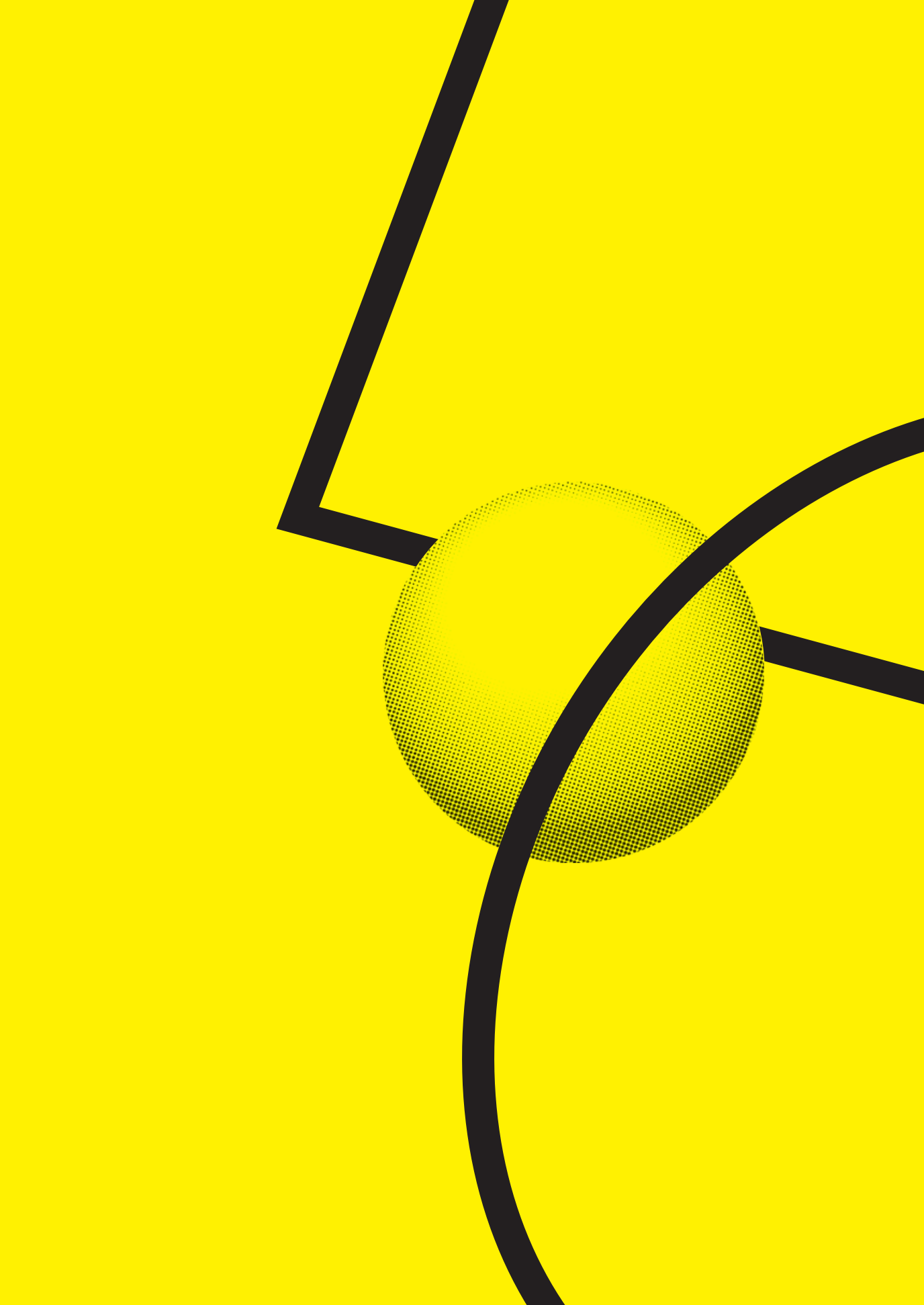
IAMAS 産業文化研究センター (RCIC)

〒503-0807

岐阜県大垣市今宿6丁目52-18 ワークショップ24 5階

<https://www.iamas.ac.jp/rcic/>

rcic@ml.iamas.ac.jp





RCIC

Research Center
for Industrial Culture

情報科学芸術大学院大学産業文化研究センター